

沖縄における教育資料 デジタルアーカイブを活用した学力向上について

～過去からのデータを用いた教師の指導力向上～

嘉手納町立嘉手納小学校 教頭 宮城卓司

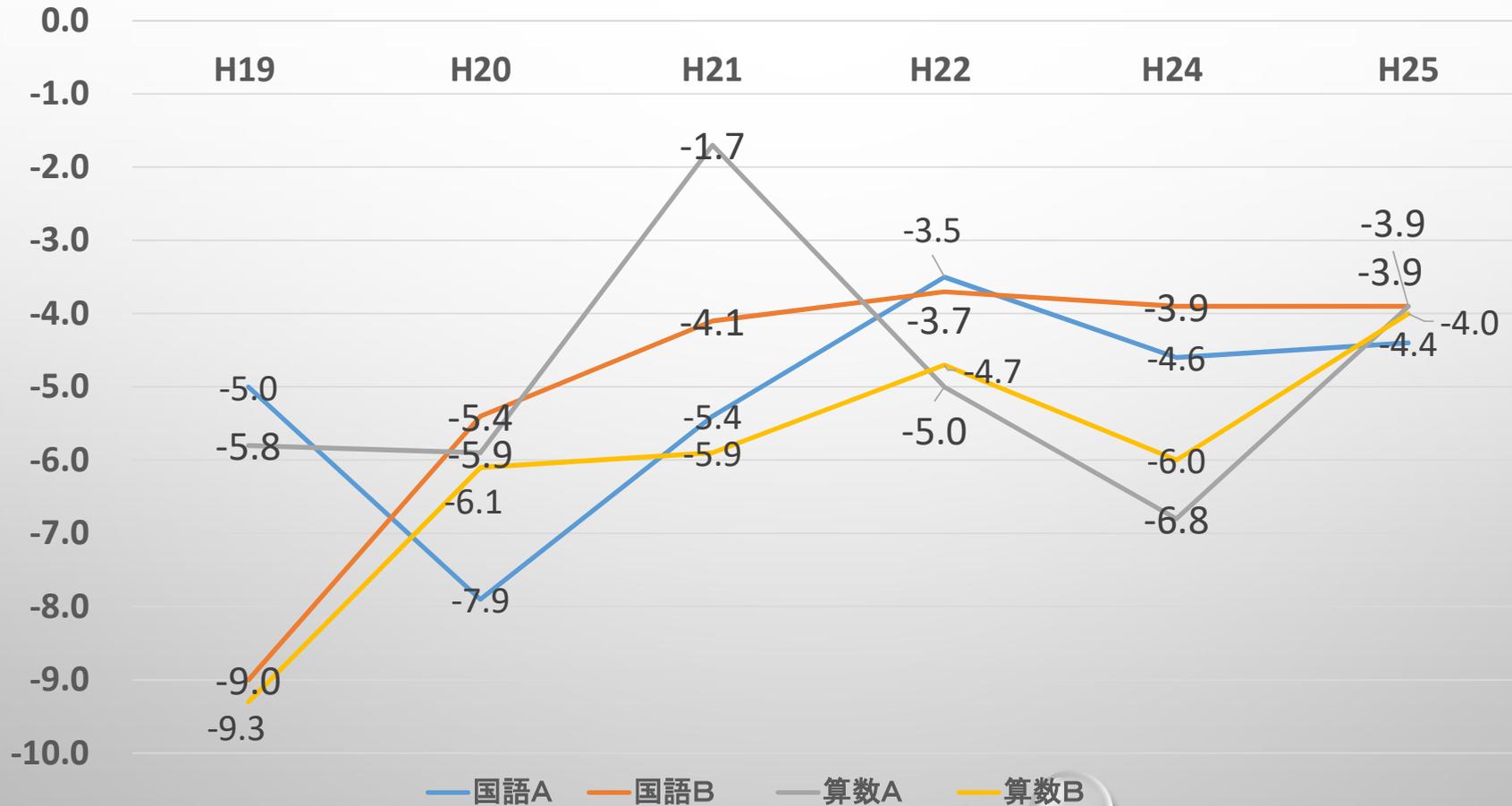
沖縄県教育委員会生涯学習課 班長 長尾順子

今帰仁村立兼次小学校 教頭 井口憲治

岐阜女子大学 眞喜志悦子

沖縄県の学力・学習状況調査の結果(小学校)

(全国平均との差)



教科別都道府県順位

	国語A	国語B	算数A	算数B	総合
平成19年度	47	47	47	47	47
平成20年度	47	47	47	47	47
平成21年度	47	46	41	47	47
平成22年度	47	46	46	47	47
平成24年度	47	47	47	47	47
平成25年度	46	47	47	46	47

衝撃 予想外の格差



全県学力テストの平均正答率を報告する中城教育センター長。背景には、学力テストの結果が発表された際の様子。

【本紙記者】「学力テストの結果が発表された際、中城教育センター長は、衝撃を受けた。学力テストの結果が発表された際、中城教育センター長は、衝撃を受けた。学力テストの結果が発表された際、中城教育センター長は、衝撃を受けた。」

達成度上昇■センター試験最下位脱出も

学力テスト 対策20年 反映せず

【本紙記者】「学力テストの結果が発表された際、中城教育センター長は、衝撃を受けた。学力テストの結果が発表された際、中城教育センター長は、衝撃を受けた。」

家の所得で正答率に差

【本紙記者】「学力テストの結果が発表された際、中城教育センター長は、衝撃を受けた。学力テストの結果が発表された際、中城教育センター長は、衝撃を受けた。」

【本紙記者】「学力テストの結果が発表された際、中城教育センター長は、衝撃を受けた。学力テストの結果が発表された際、中城教育センター長は、衝撃を受けた。」

沖縄 全教科で最下位



中城教育センター長が、学力テストの結果を発表している様子。

全国学力テスト結果

「活用」、数学に格差

5-15歳全国下回る

【本紙記者】「学力テストの結果が発表された際、中城教育センター長は、衝撃を受けた。学力テストの結果が発表された際、中城教育センター長は、衝撃を受けた。」

調査結果の概要

各教科の平均正答率(公立)

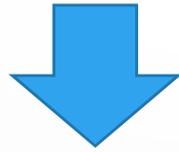
★小学校算数			★中学校算数		
A(知識)	B(活用)	全国	A(知識)	B(活用)	全国
76.7%	53.0%	81.7%	74.3%	47.6%	82.1%
53.0%	30.0%	62.0%	71.9%	60.6%	63.6%
-5.0	-9.0		-14.7	-13.0	

沖縄除き地域差小幅

【本紙記者】「学力テストの結果が発表された際、中城教育センター長は、衝撃を受けた。学力テストの結果が発表された際、中城教育センター長は、衝撃を受けた。」

【本紙記者】「学力テストの結果が発表された際、中城教育センター長は、衝撃を受けた。学力テストの結果が発表された際、中城教育センター長は、衝撃を受けた。」

学力向上が最大の課題



学力が確実に向上する方法を！
(データに裏付けされた方法を)



岐阜女子大学(後藤学長)の研究
※岐阜大学時代
デジタルアーカイブ

1960年代～1980年代にかけての研究



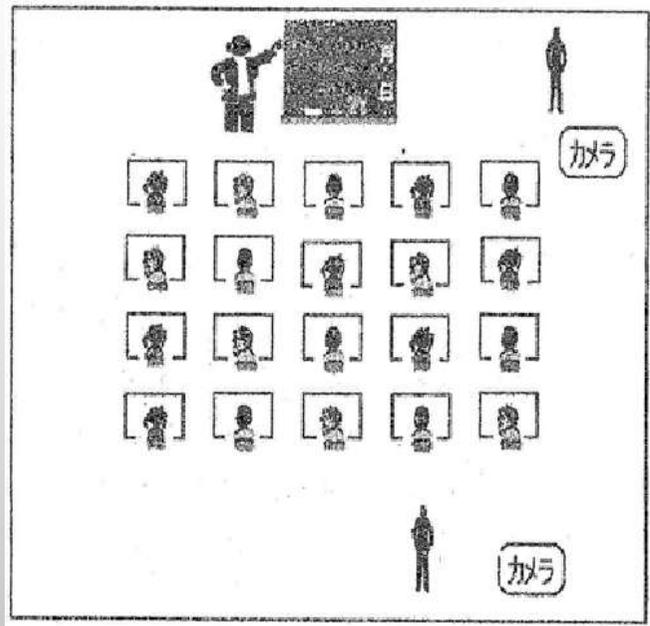
この研究結果を活用し
岐阜県における小学校で **偏差値を5～10以上向上**させた。

パンフレットの作成



(県教育庁義務教育課から県下の小学校へ配布)

授業分析



クリッカーで理解度を調査

行動カテゴリー

教師のカテゴリー

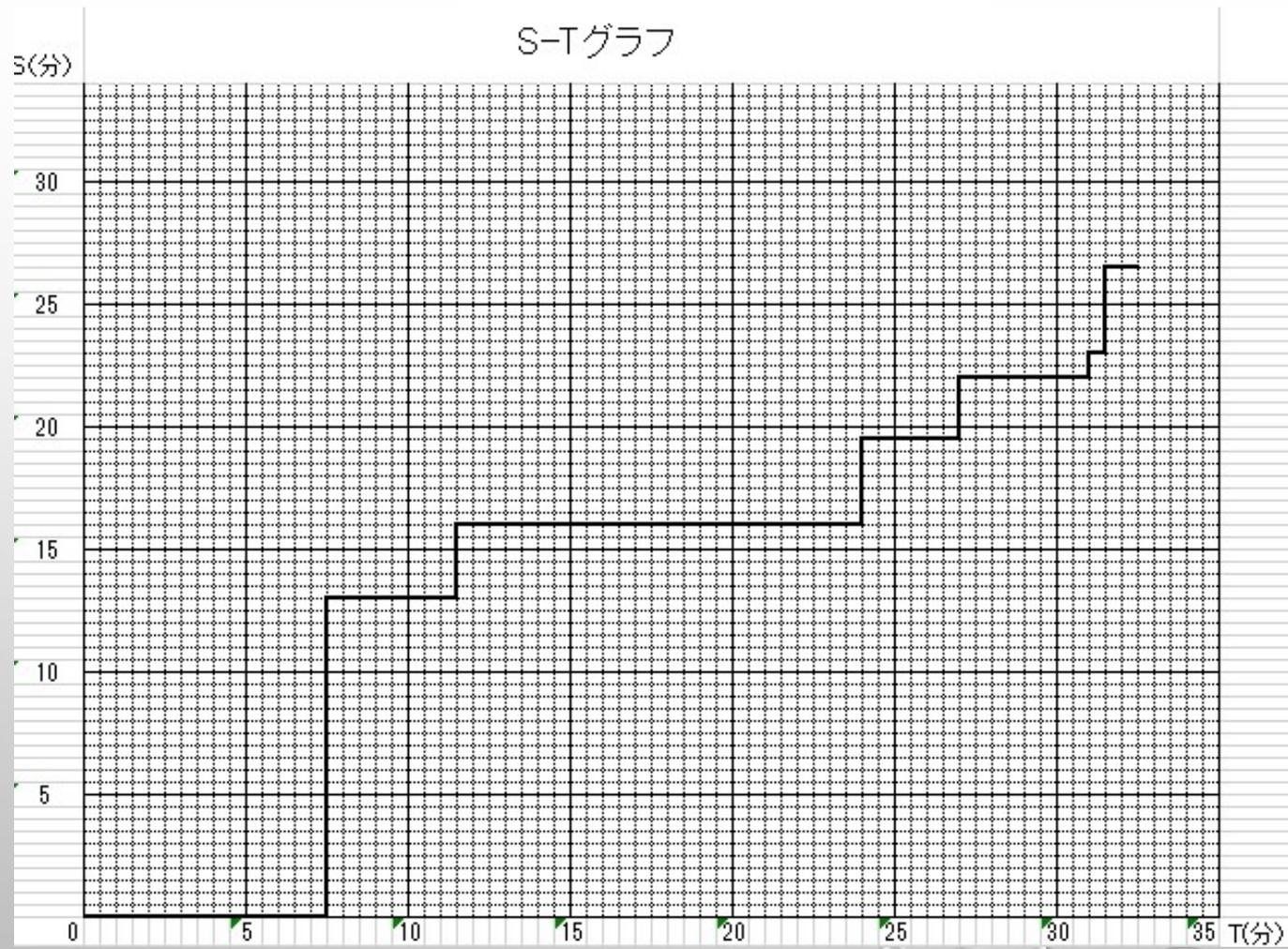
	番号	カテゴリー	内 容
間 接 的	1	児童の表現のまづさの補足	発言を認め、他の児童にも分からせる
	2	ほめる、はげます	教師の価値判断を示して意欲を盛り上げる
	3	児童の考え方の受容とその使用	教師の価値判断を入れず、受容し、使用する
	4	発問、及び発言をうながす	発問ばかりでなく、既習事項の想起も含む
直 接 的	5	説明・解説	学習内容の説明・教示
	6	方向づけ・ヒント	学習内容を整理して方向づけ・ヒント
	7	指名	応答を要求する
	15	教師の余談	諸注意、諸指示、その他

児童のカテゴリー

番号	カテゴリー	内 容
8	単純応答	質問に対する即答
9	即答に続く自主的発言	即答に引き続き自分の考えを述べる
10	自発的質疑応答（児童間）	他の児童の発言に対する自主的発言
11	自発的質問・意見（対教師）	十分納得いかない事項に対する発言
12	グループの話し合い	指示がない自然発生の話し合いも含む
13	作業	ノート、実験、見る、斉読など
14	沈黙・とまどい	その他も含む

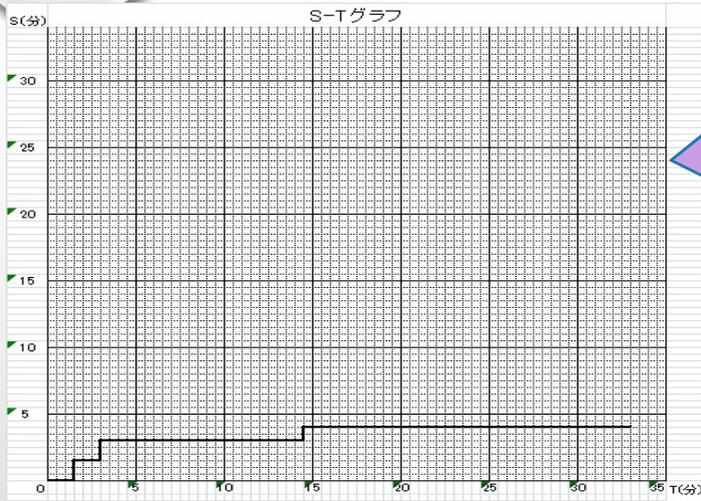
時間	場面	教師/児童の発言	カテゴリー	
			教師	児童
00:03				14
00:06	S号令をかける これから・・・ T1: 初時間巡視して学習の準備が出来ているか確認	S1: よい姿勢。		14
00:09		これから・・・		14
00:12		T1: いえいえ、いえ。	15	
00:15		S2: みなさん、よい姿勢。		14
00:18		T2: 見て回ります。横縦筆記用具はどこ？	4	
00:21		S3: 左上		8
00:24		S4: よい姿勢。		14
00:27	S5: はい。		14	
00:30	S6: これから1時間目のお勉強を始めます。		14	
00:33	S7: よろしくお願ひします。		14	

S-Tグラフによる分析



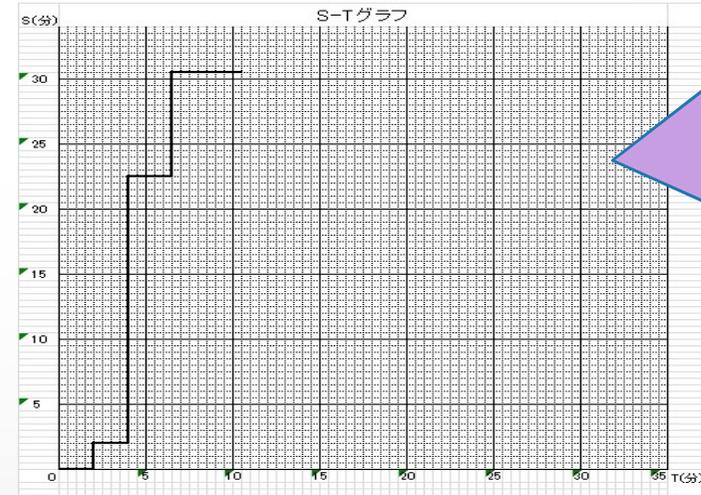
S-Tグラフによる分析

講義型授業



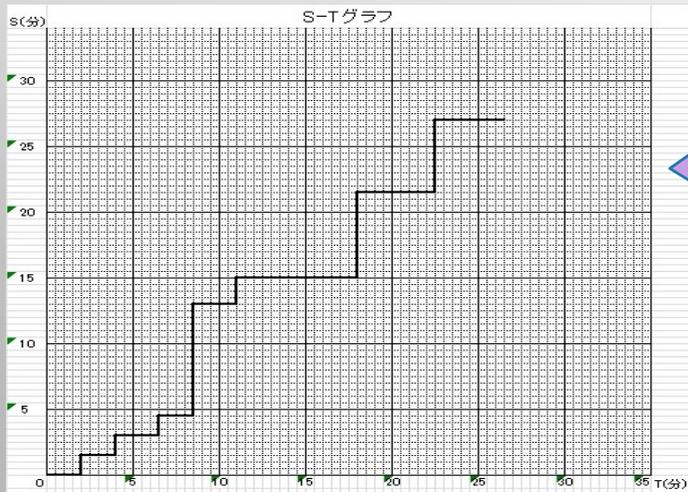
横軸(T軸)に平行な線分が多く出現します。教師の行動で授業時間の大部分が占められているものです。高等学校の座学の授業に多く、教師側からの情報伝達が行われる場合が多いパターンです。

演習型授業



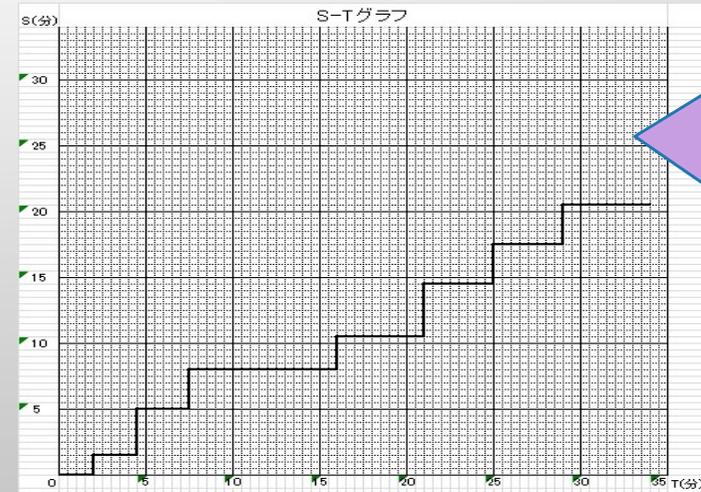
縦軸(S軸)に平行な線分が多く出現します。生徒の行動で授業時間の大部分が占められているものです。生徒による実習、実技が展開される教科に多いパターンです。

指導型授業



講義、演習、対話にはっきりと区別できるものではなく、それぞれの型が組み合わされた形で授業の中に現れるパターンです。

対話型授業



グラフは階段状になります。教師と対話型授業に見られるパターン。教師と生徒の対話を主とする授業で見られるパターンです。

行動カテゴリーのマトリックス

後の発問

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	TOTAL
1	2			1								1	2			6
2		4		2		1			2				1	1	1	12
3			13	2	2	1		1	1					4	2	26
4		1	1	18	2		2	20	3			2	1	3	2	55
5				6	94	2	1	2	4	3			6	1	4	123
6			1	2	1	17	1		3			1	5			31
7							1	1	3					3		8
8			4	6	5		1	2		3	1	1	3	5	2	33
9		2	5	1	2	2	1	1	20	2		2	7	3		48
10				1	1				1	12			4	1	3	23
11			1		1						1		1			4
12	1	1			1				3			141			8	155
13	3	2		3	11	7			6	3	1		268	1	10	315
14	1	2	1	9	1	1	1	2	2				1	42	7	70
15				4	2			4			1	7	16	6	10	50
	7	12	26	55	123	31	8	33	48	23	4	155	315	70	49	959

前の発問

行動カテゴリーのマトリックス分析結果

1番多い発問の流れ

児童「単純応答」



教師「発問及び発言をうながす」



児童「単純応答」

質が低い、閉ざされた発問

2番多い発問の流れ

児童「沈黙・とまどい」



教師「発問及び発言をうながす」



児童「沈黙・とまどい」

学習内容が難しかった



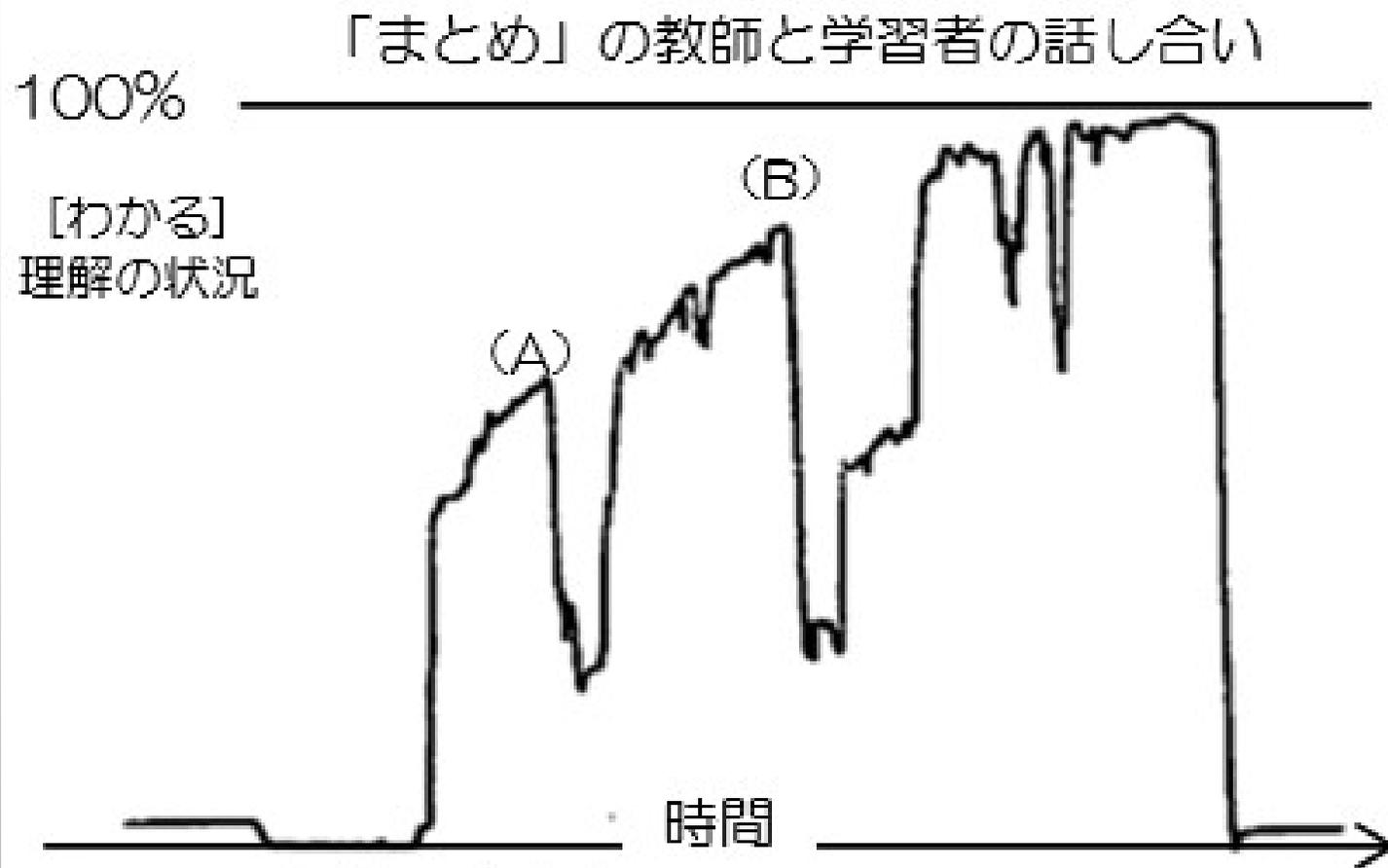
授業内容を数値化し、徹底的に分析する

発言の割合と理解度の違い

理解度	0.0	0.5	1.0
0 ~ 25%	教師		学習者
25 ~ 50%	学習者+		
50 ~ 75%	教師	学習者-	学習者+
75 ~ 100%	教師	学習者+	

学習者の+, -は, 発言内容により (+) (-) と区別

1968年の実践(大卒後3年目)

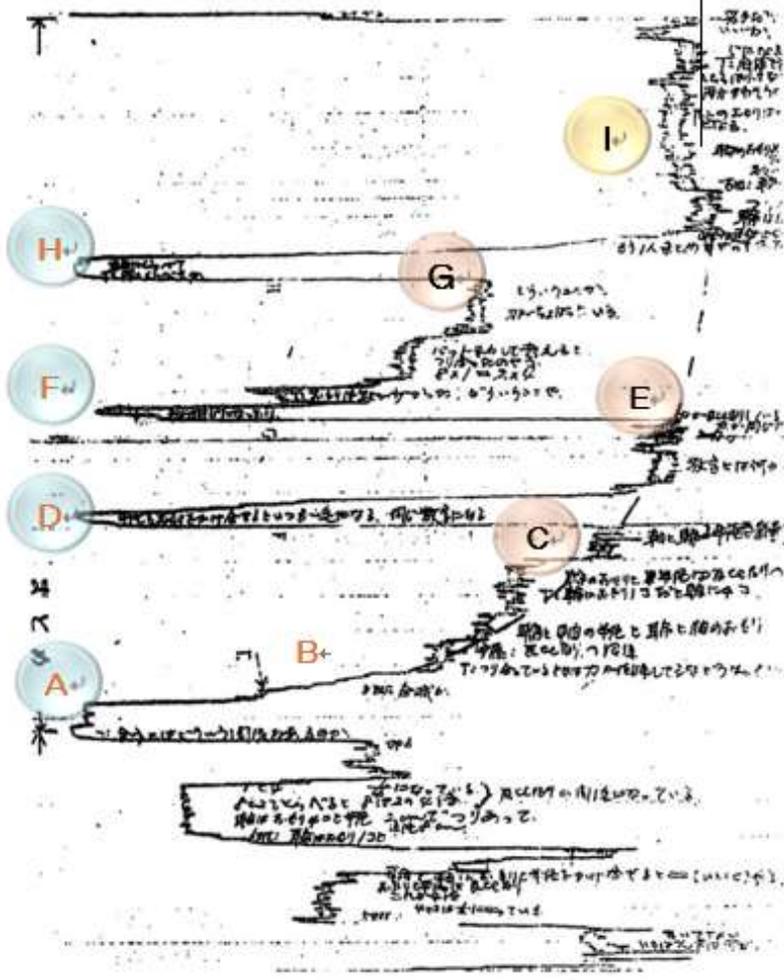


わからない

わかった (理解できた) 人数

わかる

時間

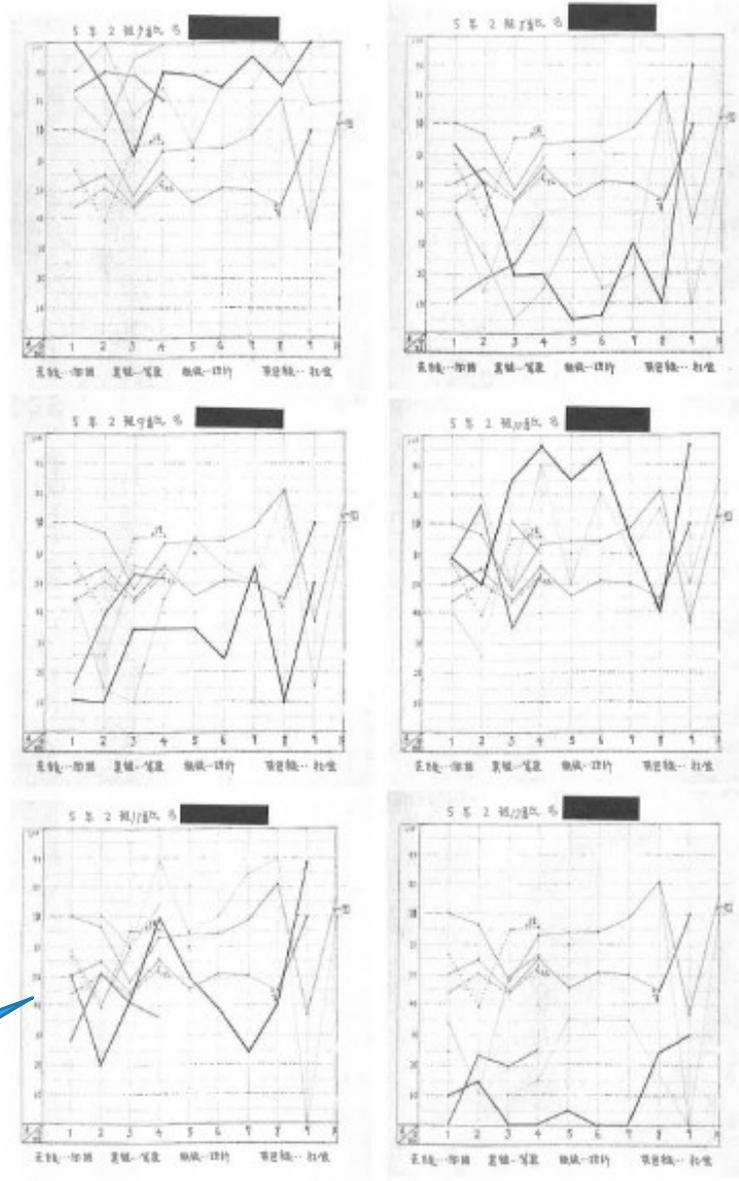


- A** : 教師「〇〇〇について、どのような関係がありますか。」と発問。
約 50% の児童がわかったと反応して (反応曲線が右へ上がって) います。
B では、教師が簡単なコメントをしています。その後、教師 (T) と児童の話し合いが続き、さらに理解度が上がります。(反応曲線は右へ上がっています。)
- C** : 児童が疑問を出すと、多くの児童がわからなくなります。(反応曲線が下がっています。)
---このような児童からの疑問・質問が出るのが考えを深めるのに重要です。
- D** : そこで先生は、説明できると判断した児童を指名し、発表させています。児童が発表・説明をすると、前 (C) よりわかる児童の数が多くなります。
---このような説明ができる児童の指名が重要です。(学習者の理解)
- E** : 児童が違った観点 (見方) からの疑問を出しました。そうすると、また、多くの児童がわからなくなります。(反応曲線が下がっています。)
- F** : 先生が指名した児童が説明すると、児童の約半数がわかりました。さらに話を続け、少しずつわかる児童が増えていきます。
- G** : そこで、先生が新たな課題を解決するための問題点について問いかけると、また反応曲線が下がります。(わからなくなります。)
---しかし、その質問が考え方のヒントになっています。
- H** : 先生が指名した児童がさらに説明すると、ほとんどの児童が理解していきます。
- I** : ほぼ全員がわかりました。その後、先生と児童との話し合いで本時の学習内容のまとめをしています。

そのまま「主体的・対話的で深い学習」

岩田先生の研究資料

No.	氏名	理科の評価					算数の評価					社会の評価					国語の評価				
		1学期	2学期	3学期	4学期	5学期	1学期	2学期	3学期	4学期	5学期	1学期	2学期	3学期	4学期	5学期	1学期	2学期	3学期	4学期	5学期
1	072	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2	077	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3	079	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4	079	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5	080	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6	080	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
7	082	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8	085	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
9	085	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
10	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
11	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
12	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
13	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
14	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
15	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
16	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
17	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
18	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
19	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
20	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
21	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
22	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
23	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
24	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
25	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
26	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
27	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
28	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
29	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
30	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
31	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
32	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
33	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
34	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
35	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
36	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
37	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
38	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
39	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
40	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
41	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
42	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
43	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
44	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
45	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
46	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
47	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
48	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
49	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
50	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
51	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
52	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
53	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
54	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
55	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
56	089	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5



各テストをグラフ化し分析

岩田先生の研究資料

5年2組23番氏名

項目	状況	事象と所見
園庭		
社会		
音楽		
理科		
書画		
園工	○	
休養		
その他 特別 など		

この児童の観察状況は、園庭でなされたもので、X印は記入しなかった。

5年2組24番氏名

項目	状況	事象と所見
園庭		
社会		
音楽	X	
理科	○	
書画		
園工		
休養	X	
その他 特別 など		

この児童の観察状況は、園庭でなされたもので、X印は記入しなかった。

5年2組25番氏名

項目	状況	事象と所見
園庭		
社会		
音楽		
理科		
書画		
園工		
休養		
その他 特別 など		

この児童の観察状況は、園庭でなされたもので、X印は記入しなかった。

5年2組26番氏名

項目	状況	事象と所見
園庭		
社会		
音楽		
理科		
書画	X	
園工		
休養	X	
その他 特別 など		

この児童の観察状況は、園庭でなされたもので、X印は記入しなかった。

5年2組27番氏名

項目	状況	事象と所見
園庭	○	
社会		
音楽	○	
理科	X	
書画		
園工	○	
休養	○	
その他 特別 など		

この児童の観察状況は、園庭でなされたもので、X印は記入しなかった。

5年2組28番氏名

項目	状況	事象と所見
園庭		
社会		
音楽		
理科		
書画		
園工		
休養		
その他 特別 など		

この児童の観察状況は、園庭でなされたもので、X印は記入しなかった。

5年2組29番氏名

項目	状況	事象と所見
園庭		
社会		
音楽		
理科		
書画		
園工		
休養		
その他 特別 など		

この児童の観察状況は、園庭でなされたもので、X印は記入しなかった。

5年2組30番氏名

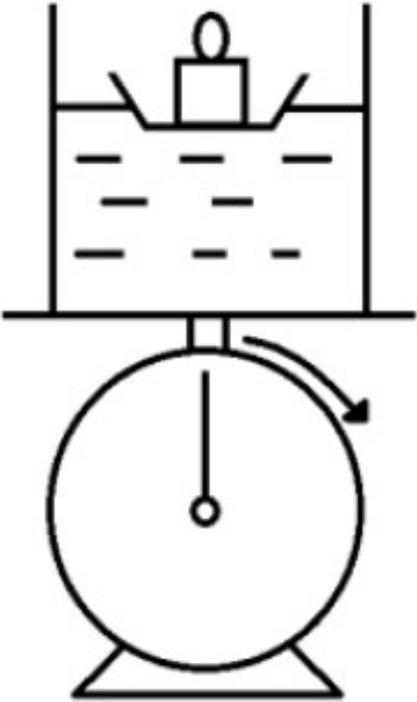
項目	状況	事象と所見
園庭		
社会		
音楽		
理科		
書画		
園工		
休養		
その他 特別 など		

この児童の観察状況は、園庭でなされたもので、X印は記入しなかった。

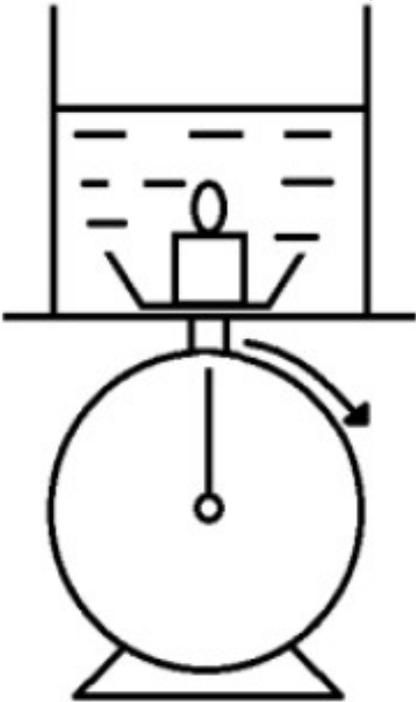
児童の実態を毎週記録

思考力を要する問題の研究

どちらが
重いでしょうか？



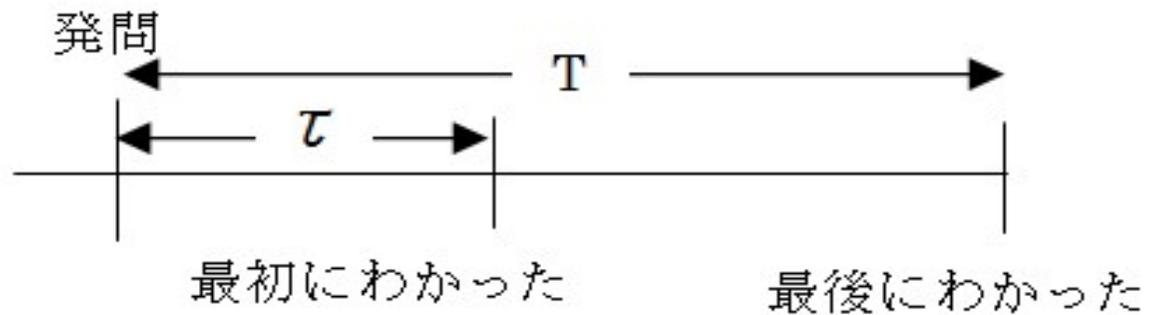
(A)



(B)

正答
同じ

アナライザーによる分析



最初にわかった児童から、どのくらいの時間がかかるか

	1/4が わかる	2/4が わかる	3/4が わかる
小学校	1.9 (倍)	2.5 (倍)	3.7 (倍)
高校	1.9 (倍)	2.6 (倍)	3.7 (倍)



発問後、考える時間を
どのくらい与えればいいのか分かる

探査的な発問に対する応答

※反応時間は、発問してから児童が反応するまでの時間

反応時間 状況	数秒～10秒 Q1 (1/4)	10秒～14秒 Q2 (2/4)	14秒～20秒 Q3 (3/4)	20秒以上
児童は問いを…	理解している	やや理解困難	理解困難	(問いに問題点あり)



最低でも10秒程度は待つ必要がある。

グループ討論と全体討論について

課題解決状況

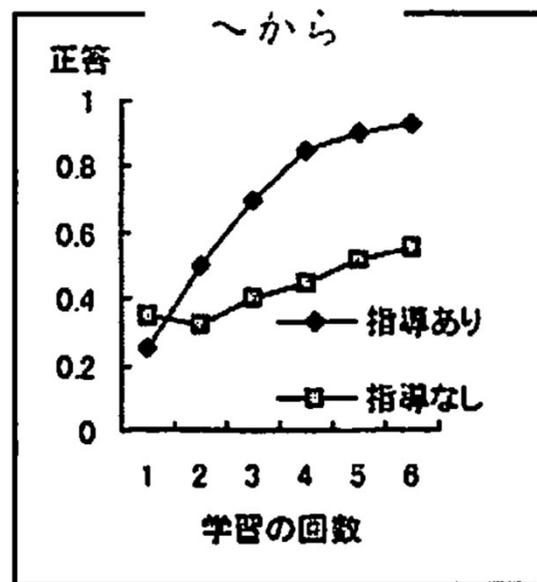
	Q ₁	Q ₂	Q ₃
グループ討論	50%	69%	87%
全体討論	53%	73%	87%

所要時間

	Q ₁	Q ₂	Q ₃
グループ討論	2.2分	3.0分	4.0分
全体討論	1.2分	1.6分	2.4分

繰り返し学習とその内容の重要性(井口先生の実践)

1975～1980頃の
繰り返し学習の研究



指導ありの繰り返し学習が4～5回目で、正答率が8割を超え安定する傾向あり

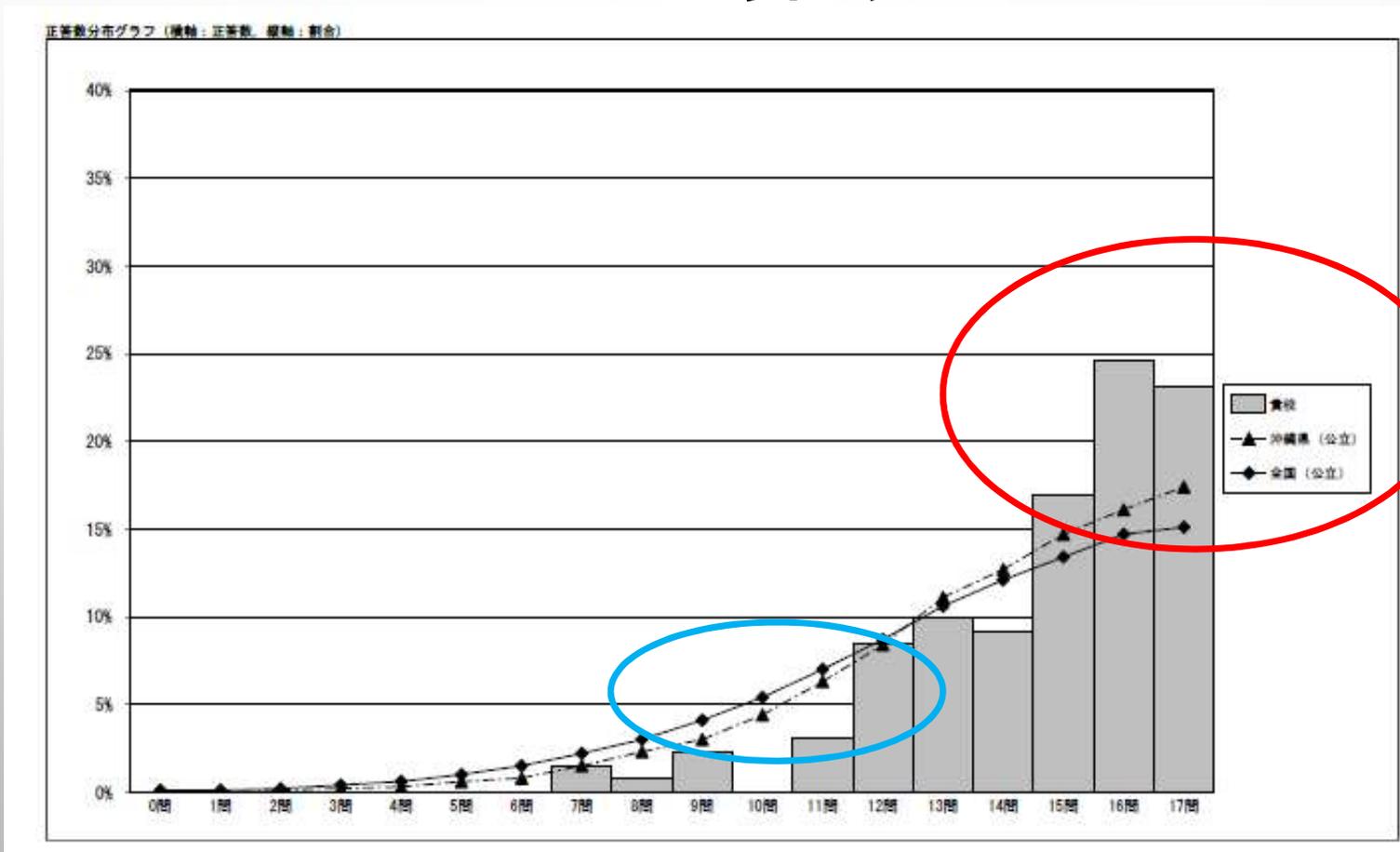
全国学力・学習状況調査の平均正答率比較

本校6年生 140～150名 4クラス

算数A	実施前	実施後	
	25年度	26年度	27年度
秋田	82.8	85.1	81.2
本校	71.7	86.6	82.5
全国	77.2	78.1	75.2
沖縄	73.3	80.9	77.7

指導ありの繰り返し学習実施後1年目

全テ 算数 A



繰り返し学習継続実施後

中学校での変化

※中学校の教頭、学力向上対策主任より

- ・ 五月の東京書籍の標準学力調査で 全国平均を超えている。剥離していない。
- ・ 沖縄県の学力調査においては、平均よりかなり高くなった。
- ・ 学習に対して意欲的になっている。

平成28年	数学総合	基礎	活用
中1	73.7	76.1	64.8
全国	71.3	73.7	62.4

前任校での実践



	絶対的貧困率		子どもの貧困率		ワーキングプア率	
1位	沖縄	29.3	沖縄	30.7	沖縄	20.5
2位	鹿児島	24.3	大阪	21.8	大阪	14.2
3位	青森	24.1	鹿児島	20.6	京都	13.9
4位	高知	23.7	福岡	19.9	高知	13.0
5位	大阪	23.2	北海道	19.7	鹿児島	12.9
全国	全国平均	18.3	全国平均	13.8	全国平均	9.7

(2009年調査)

要保護・準要保護率

沖縄県(19.7%)
(2013年調査)



沖縄市(1位)



前任校(16校中1位)
46%

授業改善の方法

教頭だより

No36
 2015年1月9日
 宮城 威司

~~~~連絡事項~~~~

① 11月に行った「チェック」の結果が出ています。職員室後方のPCから「WEB学習支援システム」を覗いてください。

② 2月7日(土)教育センター研究発表会 講師：秋田大学教授 阿部 昇  
阿部先生は国語の専門家、光村図書教科書作成にも関わっています。教育行政にも深く関わり、秋田の教育の方向性を決めている中心的な方です。※参加希望者は教頭まで連絡を!

=== ☆ 説明の必要性 ☆ ===

プリント等をさせっぱなしにしてはいけない。きちんと説明をしなくてはならないという声は良く聞きます。でも具体的に説明を与える場合と与えない場合で、どのくらい成績に差が出るかといったデータはあまり見たことがありませんでした。

右の表は以前慶応大学で、小学生を対象に調査された言語に関する問題に対して、「指導の有無による習得率の変化」を示したものです。指導を与えずに、学習を6回繰り返した場合は習得率は50%程度までしか伸びていません。

しかし、ちょっとした指導を行った場合は6回で100%近くまで向上しているのが分かります。当然、全ての問題で同様なことが起こるわけではないのですが、指導の有無による違いは明らかです。

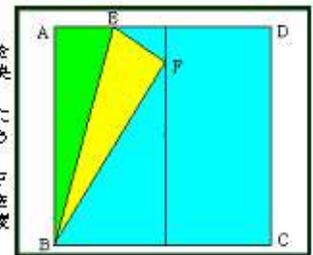
来週から学力向上計画がスタートします。webシステムにUPされた練習問題を中心に行う学年も多いかと思いますが、その際できるだけきちんと説明する時間を設けて、繰り返して学習させて欲しいと思っています。

学力向上推進室の高木主宰も「webテストを繰り返して対応してきた学校は、学力学習状況調査で明らかに成績が高かった」と話していました。

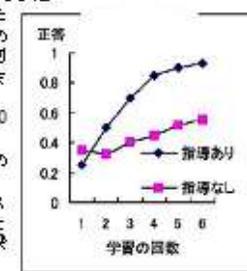
当然、時間に限りはありますので、精進行くまで全てを行う事は出来ないと思います。しかし先生方の希望をできるだけ叶えていきたいと思っていますので、相談がありましたら、連絡をお願いします。



クイズ



右の図のように、正方形ABCDを2つに折って中央に折り目をつけ、更にその折り目に頂点Aが来るようにBEで折り曲げ、Aと重なる点をFとした。このとき∠EBFの角度は?



データを元に説明

教頭だより

No12  
 2014年8月27日  
 宮城 威司

~~~~連絡事項~~~~

① インターンシップ【美栄工科高校2年生：9名】7月7日(月)～10日(木)
上原龍也君、神村映紗さん、山口舞さん【主に4年生を中心に見て頂きます】

② 教職員互助会と沖泉講の学校説明会、学校に来て説明してくれます。希望者多数の場合は、申し込みが必要です。

③ 「社会を明るくする運動」の依頼が中野探検司会長の安富さん(元PTA会長のお母さん)からありました。原簿用紙3～5枚程度です。どうぞ声かけをお願いします。

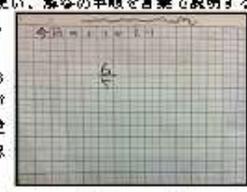
④ FC旗球のサッカースクールがあります。7月の火～金が開催可能日になっています。

⑤ 「岸とさかな」自由研究・作品、「ふるさとのお産の思い出」絵画、「いつもありがと」作文、ハットリ・キッズ食育・クッキング、朝日エコしんぶん、全国新聞スクラブ、MOA美術研児童作品展

=== ☆ 授業と宿題の連絡 ☆ ===

前回、児童が進んで、しかも工夫して家庭学習を行うようになった事例を紹介しました。右のQRコードはそのクラスで、実際に授業と宿題を連絡させて行っている様子の動画です。授業の終わりに宿題を提示し、児童が主体的に学習するための工夫がされている様子が分かるかと思います。

下の写真はそのクラスで、兼も課題の大きかった児童のノートです。4月の時点では左のように字と記入することができませんでした。しかし、記入している解法は思いっきり間違っています【?】。それが10月になると「まず」、「次に」、「すると」などの言葉を使い、解法の手順を言葉で説明することができるようになりました。



【4月のノート】



【10月のノート】

その方法ですが、おそらく多くの先生方が行っている方法と真逆な方法ではないかと思えます。

まず、児童が宿題を提出しないことに対し

て、いっさい罰を与えません。【実際、児童にとって課題に誘って宿題をやることは、忙しい先生の時間を費やす事なので、効果であり「課題を減らすって宿題!」と言われると、児童はとてもしんどかったです。】その代わりに、良い手本はほとんど紹介するなど、様々な工夫を行っていました。よく言われる「宿題を減らす」の減らすは、教師が「児童が主体的に学習する方法を徹底的に考える」と捉え、様々な手立てを考え行っていました。

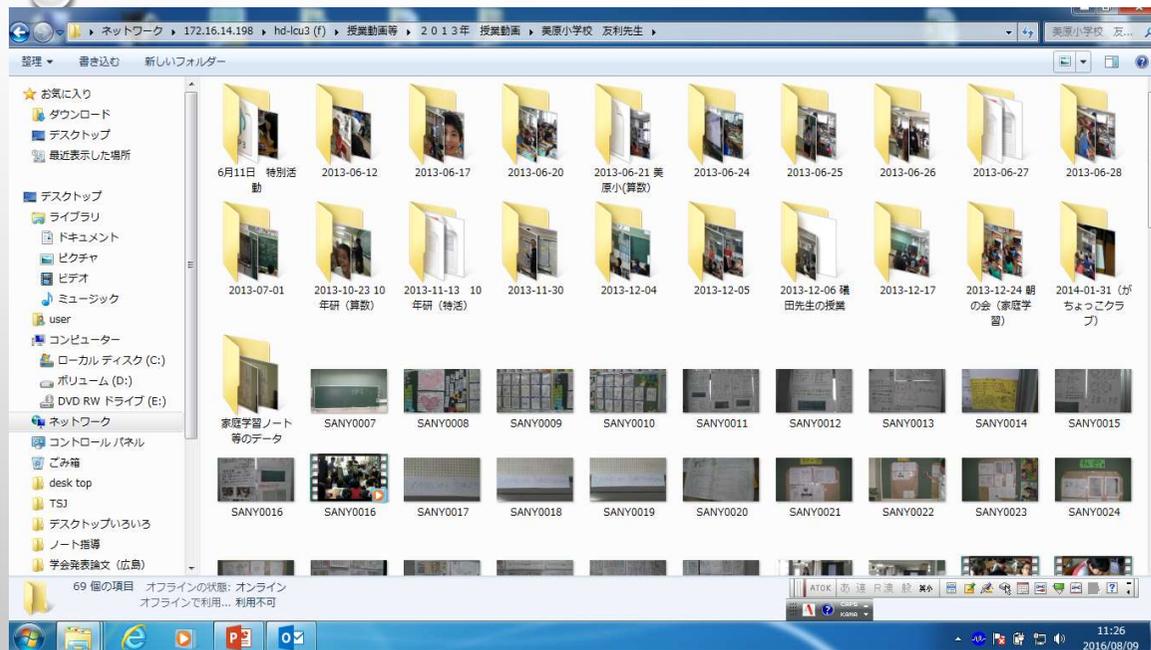
QRコードで授業動画が見れる

授業改善の方法



校内研修でプレゼン

授業改善の方法



県内外の授業動画
100時間以上

授業改善の方法



日々の授業参観→改善指導
年間100時間前後

授業改善の結果

(学力・学習状況調査都道府県別順位)

| | 国語A | 国語B | 算数A | 算数B | 総合 |
|--------|-----|-----|-----|-----|----|
| 平成19年度 | 47 | 47 | 47 | 47 | 47 |
| 平成20年度 | 47 | 47 | 47 | 47 | 47 |
| 平成21年度 | 47 | 46 | 41 | 47 | 47 |
| 平成22年度 | 47 | 46 | 46 | 47 | 47 |
| 平成24年度 | 47 | 47 | 47 | 47 | 47 |
| 平成25年度 | 46 | 47 | 47 | 46 | 47 |
| 平成26年度 | 32 | 32 | 6 | 34 | 24 |
| 平成27年度 | 32 | 13 | 6 | 26 | 20 |

前任校
都道府県別順位

| 前任校 | 国語A | 国語B | 算数A | 算数B | 理科 | 総合 |
|--------|-----|-----|-----|-----|----|----|
| 平成26年度 | 48 | 43 | 25 | 48 | | 48 |
| 平成27年度 | 22 | 4 | 3 | 4 | 1 | 4 |

沖縄県到達度調査(毎年2月実施)

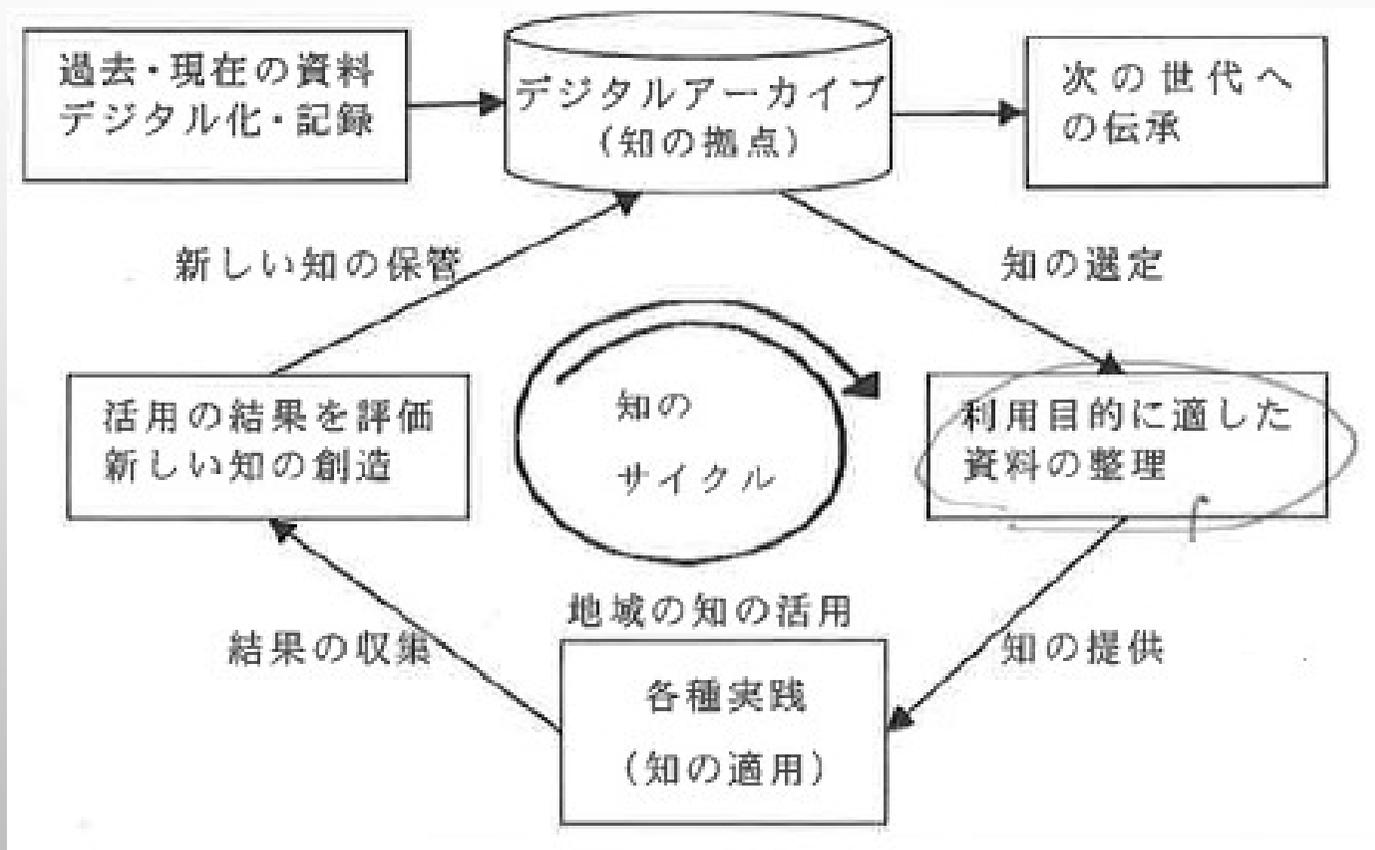
| | | |
|-------|--------|----|
| 平成27年 | 市内16校中 | 1位 |
| 平成28年 | 市内16校中 | 1位 |

当時の研究をまとめた本



デジタルアーカイブの必要性

新しい事に取り組むためにも、古いが効果的な授業方法は
次の世代に残していくことが必要！





どうも
ありがとう
ございました

